

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、地域に密着した理念を取り入れている。	地域に密着した生活を送ることを理念の中に取り入れて、事業所独自の理念を作成するほか、各ユニットごとの方針をリーダーを中心に作成されていました。日々目に付くよう、各ユニット・トイレ・事務所・休憩室に掲示しているとともに、月1回の全体ミーティングや日常の会話の中で理念の実践に向けた話し合いが行われています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、クリスマス会など催しもの案内をお出ししている。	5月のお茶会や12月のクリスマス会には地域の方にも声を掛け参加してもらっています。また、地域の幼稚園の運動会や地域の文化祭にも見学に行くなど、地域との交流に努めています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域介護者教室に参加、座談会に同席する。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で問題点を掲げて相談させて貰い、意見を頂く。	2ヶ月に1回市の担当者・包括支援センター職員・地区会長・民生委員・ご利用者ご家族に出席していただき、良い点のみならず、課題など事業所の状況をありのままに全て伝え、そこから出された意見を職員会議で話し合い、サービスの質の向上に活かす取組みがされています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括センター長に運営委員になって頂き、会議に協力して頂いている。	情報提供の他、運営推進会議の議事録を提出し、事業所の状況を把握してもらうことに努めています。また、相互に行き来し、相談や協力ができる関係が構築されています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠しなくて良い様に心掛けている。	新入職員研修時に徹底がなされ、身体拘束を行わないケアが基本とされています。やむを得ず行う場合はご家族の同意と状況報告がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について講義を受講している。	身体拘束同様に新入職員研修時に徹底しているほか、職員が虐待防止に関する研修に参加した際は、研修内容を職員同士で検討することによって虐待防止に関する理解を深めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見の講義を受講し「成年後見の展開にて」を学ぶ、必要に応じ相談に乗っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をさせてもらい納得の上で捺印をお願いしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等での座談会の中で意見、要望を聞き、満足度アンケートを配布させて貰う。	運営推進会議委員にお願いし、ご利用者に年に1度ヒアリングを行っているほか、ご家族会で出た意見・要望も確認し、サービスに活かせるように努めています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを取るよう心掛け、問いかけたり聞きだしたりしている、定期的に個別面談を行い意見や提案を聞くようにしている。	夜勤の負担が減るように正規職員を増員したり、研修参加がスムーズにできるようシフト調整なども行っています。また、年に3回の職員との個別面談において意見や要望を確認し、対応するように努めています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に勤務の考課と自己評価を実施し、職員の勤務状況の把握に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修を受講できるよう計らい、職員会議にて研修報告を行い研修内容を共有する。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学や交流を通じて事業所の意見等も取り入れてサービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎朝必ず利用者様と挨拶をさせて貰い、その時ご本人より色々な話を聞く事が出来る。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、ご家族、担当者、管理者等でサービス提供会議を行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供会議等でご本人、家族の意見を尊重し対応させて貰っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に食事作りや洗濯を行ったり、季節の行事や風習を利用者様から教えて頂きながら行っている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不安な気持ちの時に電話でご家族の声が聞ける関係や会いに来て下さる関係が少しずつ出来ている。	毎月の請求書と一緒にお手紙をお送りしたり、2ヶ月に1回広報を作成し、ご家族に事業所の状況をご理解していただけるよう努めています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話のやり取りが行われている。	センター方式を採用し、生活暦をより把握するようにしており、ご利用者の要望に応じてご自宅への外出、お墓参りなどの外出支援も行い、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味のグループが自然に出来たり、頼り頼られる関係ができ、トラブルなく穏やかに過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者様家族とも交流があり手紙のやり取りやボランティアで来所される方々もいる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り希望を叶えたいと言う思いはあるが、外出や買い物など職員体制にも限界があり、不可能な日も多くある。	ご家族と話し合い本人本位の検討をし、面談によるご利用者やご家族からの聞き取り情報は介護要約として職員間で共有するとともに、日常のケアの中で得た情報はケース記録に記入して職員間で共有することで思いや意向の把握がされています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族からの聞き取りを行い、センター方式を導入している。	思いや意向の把握同様に、面談によるご利用者やご家族からの聞き取り情報は介護要約として職員間で共有するとともに、日常のケアの中で得た情報はケース記録に記入して職員間で共有することでご利用者の生きてきた環境にもとづいたケアに努められています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、毎月1回のミーティングでモニタリングをしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員でのモニタリングには現状を踏まえてアイデアを出し合い積極的な意見交換が行われている。	毎月行われている全体ミーティングにおいて各ご利用者様のケア等について話し合いをしており、状況や意見を全職員が記入したアセスメント用紙をもとに介護計画が作成されています。半年に1回の期間に応じた介護計画の見直しを行うほか、全職員が参加する全体ミーティングとケアカンファレンスにおいてご利用者の状態をチェックし、変化が生じた場合には随時見直しが行われています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートの活用で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	おむつ券をお預かりし購入したり、ご希望に応じ宿泊もして頂いている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	独居の方について冬期間のホーム入居を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連絡表をつくり受診時、先生へのお伝え事項、先生からの指示を頂いている。	ご利用者・ご家族が希望する主治医での受診が行われています。受診の同行はご家族となっているため、書面や電話にてご利用者の情報伝達が行われています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医より指示をして頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院に足を運びご家族、ソーシャルワーカーとの連携を密にしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は検討されてない。	現在のホームの環境を考え、医療的なケアが必要であれば最後まで支援していきたいと考えており、ご利用開始時にご家族に説明し同意を得ているとともに、職員間でもその方針は共有されています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一年に一度救命救急法の訓練を行っている。	年1回救急法の講習が行われ全職員が受講されているほか、事業所で起こったヒヤリ・ハットの職員への徹底もされており、事故発生時にも適切な対応ができるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度の避難訓練を行い、地域の方にも案内を行っている。	年2回の消防訓練には地域の方にもご参加いただいております。夜間を想定した訓練も行われています。	地震・水害を想定した訓練はまだおこなわれておりませんので、今後の計画に入れられることを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	幼稚言葉にならない様に気を付けている。	職員は入社時に個人情報に関する同意を行い、クレームが発生した場合には職員を召集し、徹底が図られています。また、声掛けなど羞恥心に対する配慮も行われています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話を良く聞き受け入れ共感する事を心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事、レク職員の都合を優先していると思う。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人よりもご家族の希望が多いと思う。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日等にはご本人の召し上がりたい物をお聞きしたり、手打ちうどんやギョーザ作りにも参加して頂き喜んで頂いている。	ご利用者の状態に応じて、皮むき・盛り付けなどの準備、片付けに参加してもらっています。また、季節に応じてたくあん漬やおはぎを作ったり、外食にも行くなど食事が楽しみなものになるよう努めています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表を作り1人ひとり摂取した量が一目で分かる様になっており、呑み込みの困難な方はお茶ゼリーやポカラゼリーを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの状態に合わせて出来る方には声かけ、出来ない方には介助または全介助で行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な交換、必要な方には声かけ、誘導をしている。	時間による画一的な誘導ではなく、しぐさや動きをもとに排泄パターンを把握し、誘導がされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し食物繊維の多い献立を作っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	対応出来る時間、人数は決まってしまうので皆様の体調を考え入浴を心掛けている。	入浴時間はご利用者の希望が尊重されています。入浴を嫌がられる場合は、無理強いをすることなく、時間を置いてタイミングを見計らう、さりげない声掛け、場合によっては職員と一緒に入るなどの工夫がされています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人人の生活リズムに合わせて支援し、必要に応じ家族や医師に相談する。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし申し送りを徹底すると共に服用の目的等を1人ひとり明記している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や出来る事を活かして家事等を行い生活して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	その日の希望に沿えない時もあるが散歩や外出などに行けるようにしている。	時期に応じた花見やぶどう狩り、あやめ見学などのドライブ、日常的な近隣への買い物や散歩などの外出支援が行われています。	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	自己管理の希望のある方は家族の方と相談し管理して頂いている。		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	希望された時には状況に応じ対応している。		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	日中は不快にならない程度に日光を取り入れたり換気をし暖かい雰囲気作りをしている。	白と明るい木目を基調とした清潔感がある共有スペースに季節を感じる花や装飾が程よくなされ、居心地のよい空間が作られています。	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	食事等の移動や声かけにより気の合った利用者様同士で過ごさせるよう工夫している。		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	自分の部屋として居心地良く生活して頂けるよう家で使用していたタンス、置物、家族との写真を飾っている。	ご利用者の愛用していたものの持込みや写真の掲示など、一人ひとり個性がある部屋となっています。	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	居室入口に本人の写真を飾り付け、トイレも表示を付け間違いを防ぐ工夫をしている。		